

第12回 TIAナノグリーン・サマースクール開催報告

環境・エネルギー分野のイノベーション、いわゆるグリーンイノベーションに貢献する人材を育成するための教育プログラムとして、本年もナノグリーン・サマースクールが8月27日から8月29日の日程で開催されました。実施・運営を行った石塚智也准教授(筑波大学数理工学系)にお話を伺いました。

TIA 連携大学院サマー・オープンフェスティバル2024の一環として、2024年8月27日から29日までの3日間、第12回TIANANOグリーン・サマースクールが開催されました。本スクールはナノグリーン分野の研究に興味をもつ学生および社会人を対象に開校されており、今回の参加者は計11名で、全員が筑波大学大学院生でした。

今回も、講義では、世界第一線で活躍する8名の先生方を講師としてお招きし、それぞれ90分間で先端計測、化学変換、放射光による分析、光機能性有機材料、太陽電池、バイオマスなど、ナノグリーン分野に関連する基礎から最先端の応用研究までの幅広い内容をお話いただきました。講義において、参加者からは積極的な質問が多くなされ、ナノグリーン分野に対する参加者の関心の高さが伺えました。なお、参加者には、グリーンイノベーションに関する3つの課題から一つ選んで詳述する形のレポートを提出してもらうことで、グリーンイノベーションに対して自ら能動的に考える機会を与え、そのレポートを筑波大学の教員で評価しました。講義以外の内容としては、1日目に行われた始業式では、教員紹介、参加者の自己紹介、課題発表を行いました。また講義中に撮影した写真は、今後の広報活動に利用させていただく予定です。

2日目に行われたプレゼンテーションセッションでは、参加者が事前に提出した研究概要に基づいて、10分間の発表を行いました。自分の研究をコンパクトにまとめて専門外の人にわかりやすく説

明して頂きました。発表後の質疑応答では筑波大学の教員や、外部の研究機関から招いた審査員、および参加者から、多角的な視点に基づくコメントがあり有益でした。この質疑応答に関しても参加者の皆さんは、積極的に取り組んでおり、努力してわかりやすく説明しようとする姿勢が見られました。今回の発表は、今後自分自身の研究を進めて行く上でのヒントを得る良い機会になったのではないかと思います。

講義終了後に修了式を行いました。さらに、研究概要、研究発表および、サマースクール終了後に提出されたレポートが優秀と認められた参加者の2名に優秀賞が授与されました。また出席者全員に修了証が授与されました。

大学、特に大学院での多くの講義の形式は、教員の講義を聞いて、学生はその後自分で講義を振り返り復習することでその内容の理解を深めるという、いわば一方向のものが多く、その傾向はコロナ禍のオンライン講義では強まる傾向にあったと思います。その中で、今回のサマースクールでのプレゼンテーションのように双方向のもの、特に学生が自発的に参加する機会は貴重なものだったはずです。本スクールにおける経験は、必ず研究者としての参加者の成長に役立つものと考えています。



講義風景



開催日	2024年8月27日(火)～8月29日(木)
会場	筑波大学 総合研究棟B
主催	筑波大学大学院数理工学系研究群, エネルギー物質科学研究センター(TREMS)
共催	物質・材料研究機構(NIMS)
構成	講義8コマ+プレゼンテーションセッション(レポート提出)
参加者数	11名(大学院生 11名)
受賞者	優秀賞 2名

TIA連携大学院 News Letterのバックナンバーは、ウェブサイトでご覧になれます。

<https://tia-edu.jp>



●編集・発行・連絡先：

国立大学法人 筑波大学 TIA推進室 tia-edu@un.tsukuba.ac.jp
〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1